

私たちは文化財をとおして
ゆたかな滋賀づくりに貢献します。



公益財団法人滋賀県文化財保護協会
設立 50 周年を迎えます

季刊 みる・きく・ふれる 文化財

おうみ文化財通信

vol. 52

Information of Cultural Heritage in OHMI

2022 Summer

【調査速報】室町時代後期の堀で囲まれた屋敷地を発見！－彦根市佐和山城跡－

【資料紹介】櫓時計（江戸時代 滋賀県立琵琶湖博物館蔵）

【展示案内】滋賀県埋蔵文化財地域展示Ⅳ・協会 50 周年記念事業

「滋賀をてらした珠玉の逸品たち－スコープと歩んだ発掘 50 年史－」

【展示案内】滋賀県立安土城考古博物館第 66 回企画展「発掘された近江Ⅱ－遺跡アラカルト－」

【お知らせ】「あの遺跡は今！ Part29 整理室へようこそ!!」



【調査速報】

室町時代後期の堀で囲まれた屋敷地を発見！

ひこねしさをやまじょうあと

彦根市佐和山城跡－一般国道 8 号米原バイパス建設工事に伴う調査－



東西方向の堀（堀 2）と周辺の様子

（写真提供：滋賀県）

佐和山城跡は彦根市北端部の佐和山丘陵にある城跡で、石田三成の居城としてよく知られています。当協会では滋賀県および国土交通省近畿地方整備局滋賀国道事務所からの依頼により、一般国道 8 号米原バイパス建設工事に伴う佐和山城跡の発掘調査を平成 30 年度から実施しています。調査地の大半は城下町域に相当しますが、昨年度は城下町の外側にあたる遺跡北端部（小字「七曲り」）で調査を実施し、堀や区画溝などの遺構が見つかり、また、そ

れらに伴って土器・陶磁器・漆器・銭貨・基石などの様々な遺物が出土しました。一昨年度の調査で、堀や区画溝の近辺に掘立柱建物や柵列が確認されていることから、堀に囲まれた屋敷地があったと推定されます。出土遺物の年代から、この屋敷地の機能時期は 15 世紀後半（1450～1500 年ごろ）に位置づけられます。これは石田三成らが活躍した時代よりも 100 年ほど古い時代にあたります。

【詳しくは次のページ】

彦根市 佐和山城跡 — 室町時代後期の堀で囲まれた屋敷地を発見！ —

●堀の規模

2か所の調査区で堀が検出されました。南北方向の堀(堀1)は幅約4m、深さ約1.2mの規模を測り、長さ約15mにわたって見つかっています。東西方向の堀(堀2)は幅約3m、深さ約0.7mの規模を測り、長さ約16mにわたって検出しました。堀2は堀1と直交しており、つながっていた可能性が高いと考えられます。周辺で見つかった区画溝の規模を大きく上回ることから、違った機能・目的があったようです。断面が逆台形になっていること、さらに水が流れた痕跡がほとんど確認できないこともあわせて考えると、用水路等ではなく屋敷地の防御のために設けられた「堀」であったと推定されます。堀1・堀2ともに最終段階には埋め立てられた痕跡を確認できました。

●調査地の評価と考察

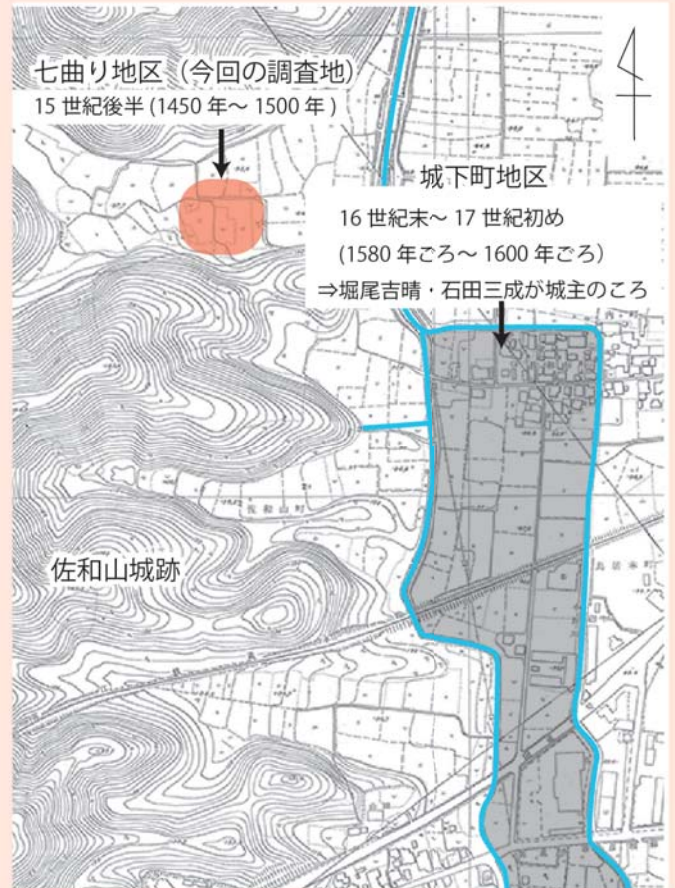
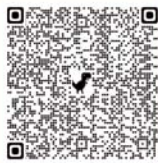
今回ご紹介した調査地(「七曲り」地区)は江戸時代後期に描かれた佐和山城跡の古絵図には詳しく描かれていないため、どのような土地利用がなされていたのか長らく不明でした。しかし、一昨年度と昨年度の調査により、15世紀後半(1450～1500年)の堀で囲まれた屋敷地が展開していたことが明らかになりました。

「七曲り」地区では、城下町地区で多く出土した16世紀末～17世紀初頭(1580年ごろ～1600年ごろ：安土桃山時代)の遺物は見つかっておらず、城下町が成立したころには、既に屋敷地としては使われなくなり、耕作地として利用されていたと考えられます。反対に城下町地区では16世紀末を遡る時期の遺物はほとんど出土しておらず、「七曲り」地区が居住の場として使われていた時代には人々はまだ集住していなかったということがわかります。「七曲り」地区が居住の場として使われなくなった詳しい時期、そしてその背景には何があったのかが、今後の検討課題となります。



しじみちゃん

こちらから R3 地元説明会
資料がご覧いただけます!



今回の調査地と城下町の位置関係



室町時代後期の南北方向の堀(堀1)



堀2から出土した漆器椀



堀1の堆積状況

(写真提供：滋賀県)

【資料紹介】

櫓時計（やぐらどけい）江戸時代 総高 85.8 cm 滋賀県立琵琶湖文化館蔵

本品は櫓（やぐら）時計と呼ばれる和時計の一種です。機械式の時計が日本に伝来したのは16～17世紀初期のことだと言われています。

櫓型をした台の上に機械本体が置かれ、動力部分は櫓の中に隠されています。動力には2個のおもりが用いられ、機械本体内部の歯車が作動することで時刻を示しました。

時計本体の正面、左右、そして裏面には、美しい菊や唐草などの草花があしらわれており、優雅さを添えています。文字盤には十二支と漢数字が見られ、黒地に金色で文字をあらわしており、落ち着いた雰囲気をかもしだしています。昭和39年（1954）に琵琶湖文化館に寄贈されたもので、この時計がこの世に誕生してからどこでどのように時を刻んできたのかは詳らかではありませんが、想像をたくましくしてみるのも楽しいかもしれません。

琵琶湖文化館のホームページでは、この櫓時計を様々な角度からご覧いただくことができます。ぜひチェックしてみてくださいね。



あきつ君



滋賀県立琵琶湖文化館
〒520-0806 滋賀県大津市打出浜地先
TEL 077-522-8179 FAX 077-522-9634
メール biwakobunkakan@yacht.ocn.ne.jp
URL <http://biwakobunkakan.jp>

文化館 HP



(写真提供：滋賀県立琵琶湖文化館)

【展示案内】滋賀県埋蔵文化財地域展Ⅳ・協会50周年記念事業

「滋賀をてらした珠玉の逸品たち—スコープと歩んだ発掘50年史—」

今夏の滋賀県埋蔵文化財地域展は、わたしたち調査員がセレクトした、過去50年にわたる発掘調査の歩みのなかで出土した逸品を展示します。わたしたちがスコープとともに過ごした日々の中で、ときには新聞紙上を駆け巡る発見もありました。わたしたちを感動の渦に巻き込んだ遺物の数々を、ぜひみなさんもご覧ください。発掘調査の50年、滋賀県を盛り上げたのはこの子たちです！

大学生とのコラボ企画や、逸品人気投票など、みなさんにも楽しんでもらえるイベントを企画中！詳細は、後日ホームページ等にてお知らせします。

【開催期間】令和4年7月23日（土）～11月18日（金）

【開館時間】午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

【休館日】土・日・祝日（7/23～9/4までの夏休み期間、および11/3（木・祝）11/12（土）は土・日・祝日開館）

【入館料】無料

【会場】滋賀県埋蔵文化財センター 1階ロビー
（滋賀県大津市瀬田南大萱町1732-2）

【お問合せ】公益財団法人滋賀県文化財保護協会

077-548-9780（平日 午前8時30分～午後5時15分）

〒520-2122 滋賀県大津市瀬田南大萱町1732-2

●展示する主な遺跡（予定）

蓮華文方形軒瓦（大津市・榎木原遺跡）、水鳥形埴輪（高島市・妙見山C-1号墳）、木偶（野洲市・湯ノ部遺跡）、小銅鐸（栗東市・下鈎遺跡）、土偶（東近江市・相谷熊原遺跡）、双環柄頭短剣鍔型（高島市・上御殿遺跡）など、調査員がセレクトした逸品約50点（一部レプリカを含む）

●会場・内容の詳細は当協会HP（<http://shiga-bunkazai.jp/>）まで



相谷熊原遺跡出土 土偶



上御殿遺跡出土 双環柄頭短剣鍔型

(写真提供：滋賀県)



協会HP

やむをえず、会期を変更する場合がございます。最新情報は協会ホームページでご確認下さい。

【展示案内】滋賀県立安土城考古博物館 令和4年度 第66回企画展

「発掘された近江Ⅱー遺跡アラカルトー」

本展では、近年、滋賀県内で発掘調査された遺跡の中から、近江の歴史を考える上では欠くことのできない重要な資料であるものの公開の機会が少なかった、相谷熊原遺跡、入江内湖遺跡、高田館遺跡、十里遺跡、宇佐山古墳群、番場遺跡、穴太飼込古墳群、蛭子田遺跡、上御殿遺跡、六反田遺跡、春日北遺跡、宮前遺跡、大篠原西遺跡、まといびー里井B遺跡で出土した、縄文時代から中世の土器、石器、木製品などを紹介します。



まめのぶん



博物館 HP



穴太飼込 13号墳出土 土器・鉄製品



上御殿遺跡出土 祭祀具

(写真提供：滋賀県)

【開催期間】令和4年7月16日(土)～令和4年9月19日(月・祝)

【開館時間】午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

【休館日】7月19日(火)、8月29日(月)、9月5日(月)・12日(月)

【入館料】大人600(480)円、高大生360(290)円、
小中学生・県内高齢者・障害のある方は無料。

※()は20人以上の団体料金。

※「信長の館」との共通券 大人980円、高大生540円

滋賀県立安土城考古博物館

〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 6678

TEL. 0748-46-2424 FAX. 0748-46-6140

URL : <https://www.azuchi-museum.or.jp/>

やむをえず会期を変更する場合がございます。最新情報は当館ホームページでご確認下さい。ご入館の際はマスクを着用し、手指の消毒にご協力ください。

【お知らせ】整理室公開事業・埋蔵文化財整理調査報告会

「あの遺跡は今！ Part29 整理室へようこそ!!」

—考古学でよみとく
近江の歴史—

滋賀県立安土城考古博物館内の整理室では、滋賀県内の発掘調査で見つかった出土品の整理調査をしています。夏休み2日限定の恒例イベント「あの遺跡は今!」では、現在整理調査をしている蜂屋遺跡(栗東市)や矢倉川遺跡(米原市)などの出土品を、現地調査の写真パネルと調査員の詳しい解説付きでご覧いただけます。

そのほか、出土品の接合や実測・注記などの調査作業の公開も、あわせて行います。調査スタッフの熟練の技を、ぜひ間近にご覧ください。

今年は、古代瓦の模様をあしらったキーホルダーの色塗り体験(各日午前・午後の2回、各10名)もあります。受付で無料配布する展示解説シートには、自由研究のテーマのヒントがたくさん。楽しく歴史にふれて、夏の自由研究を完成させよう!



しじみちゃん



協会 HP



回廊から作業を見学!

【開催日】令和4年7月30日(土)・31日(日)

【開館時間】午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

【参加費】無料(ただしキーホルダー色塗り体験のみ
事前申し込み・参加費300円が必要)

【会場】滋賀県立安土城考古博物館回廊展示(調査課安土分室)
近江八幡市安土町下豊浦 6678

【お問合せ】博物館内 調査課安土分室 0748-46-4861

(キーホルダー色塗り体験の申し込み方法等の
詳細は、当協会ホームページに掲載します)

やむをえず中止する場合がございます。

最新情報は当協会ホームページをご確認ください。